滿洲日報

豆價錢 六吊三百七十文至六吊二百文
合豆價錢 五吊六百文至五吊四百五十文
小米價錢 七吊六百文至七吊二百七十文
糧價錢 五吊五百文至四百五十文

全 赤味噌 全 大樽四打入 同四圓九十錢 同二十二圓五十錢
札幌麥酒 全 四打入 同十一圓 同十二圓五十錢
蜂印香竄葡萄酒
桃 梨 人形 ミルク 全 二打 四打 同八圓五十錢 同九圓五十錢
澤鶴 サッポロビール 一全 切込 全 全 正味四斗四升入 十四圓五十錢 十七圓 九圓七十錢 （宅合名會社調査）

○報價目
每月收取八角代價所及送報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議從減 每張四百文

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

料 一ケ月以內 一長期連揭減價面議
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 （電話二九番）

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
横濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫動 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺

電話 十番 支配人室
百八番 事務室

横濱正金銀行牛莊支店

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所
大連市穏岐町三百三十八號
日華運輸公司
遼陽 遼陽倶樂部
谷口今朝太郎

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL ENGINEER.

Plans and specifications made to order.
ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

布教講演開始
一日時 今十四日より毎日曜日午前十一時
一會場 西營口 老爺廟通街 老爺廟（第三憲兵詰所より南へ三丁小橋に至りて西へ突當り）
一講演 佛説四十二章經次に法話一席（毎回）
信ある人は來て其念を深せよ信なき人は請ふ聽け
布教使 禪宗妙心寺派 古川大航
教義を訊問せらるゝ方の爲め毎日午前喜待す
法要の希望に對しては午後直に赴き修す

三井洋行
倉庫部
●精製白砂糖新入荷物あり
今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候
（電話百二十八番）

啓者本行開創在中外通商各埠己有年歷所售棉紗火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷

宅合名會社
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒洋貨一切雜貨其名譽己傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋陝鋪表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸
總司理人 田中賴之助謹白

○東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水腳棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人 葉亮卿謹白

○東永茂
機器油房在營口創設多年以本業務非祗依油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物兼代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之 設在營口西北街路南
正理事潘玉田 副理事金德魁

○西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外 士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

○仁裕號
係裝運各幫火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

○恒有長
本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價值格外從廉克己并另設銀爐包營鎔鑄以應急需久爲 中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

○元茂盛
油坊買賣元荳荳油荳餅雜色粮石以及代客購糴雜貨布疋一概發行裝運沙寗煬船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

○德商 瑞生洋行
啓者本行由外洋運來金山松木大小方子厚薄板片以及樓板並有道木性皆堅固貨高價廉賜顧者乞至本木廠面議
營口西街潮溝西本行主人啓

○代代木烟公司
本行專售 日本官造紙烟 星象牌（斯達）櫻花牌（捷利）百合花牌（利利）均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）清香撲鼻佳美適口而價值極廉 諸尊欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

○田中牛莊分莊
啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東洋緊身洋式褂子牛莊手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面閱是幸
田中牛莊分莊謹啓

森病院
一診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時
一往診 午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任産婆大道しげ子）
院主 森 矯
醫長 鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
營口綏定門街 ブシツ商會東
川喜 鐵工場

西海洋服店
歐米各國最新流行形
永世街一四一（森病院三軒目）

寫眞 永清
奉天府 大南門裡路西

島田洋服店
東營口郵便局東隣

同 支店
新民屯停車場前

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候 但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一海關手續
一鈔關手續 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶荷物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大淸通運公司
營口支店

隆慶公司
開設在東圍門外自有碼頭恬豊木局以西南近馬路德記木局以北發售唐山大小塊炸子貨美價廉装卸舟車極便凡賜顧者請認明招牌庶不致誤謹啓

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿洲一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

各種材木 廉價大販賣
壚川商會
營口永世街二本町

○和泉洋行
本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價值格外從廉克己、凡 中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

飯塚工程局材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久己馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克已凡 中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本号新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧局急之需國本主人啓

材木販賣 荒物
秋田洋行
營口永世街第一八四號平野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

○日商 東來醬園
本醬園開創在營口双橋子南有年係請大日本著名工師自造日本醬油所造醬物料專選上等麥豆壘經沙漏之水寒熱適度加意製出故其色麗質淨味美氣芳可以供上等烹飪之用其價値甚廉非尋常市油所得而及蓋用市造之油烹物之費多而鹽梅之効少若用此油則醬味調和必諸不特于衛生之道受益不少兼爲厚生利用之妙品也賜顧紳商請嘗試之立知本醬園所言非務張之談矣
本園主人謹白

代理 道勝銀行
啓者本行代理道勝銀行匯兌以及押款借款等項格外公道如蒙賜顧請移玉本行帳房面議可也
德商 瑞記洋行代理人謹啓

貸金業
確實なる擔保品には精々勉强安利を以て御相談に應す
南永世街百二十七號
質屋 富田茂治

倫敦電報

●林大使賜暇歸朝 倫敦駐箚日本全權大使林子爵は三月末に賜暇歸朝すへし

●米國ミ市の火災 米國ミネアポリス市に於てホテル出火の爲め十一名の燒死者と多數の負傷者を出だせり

●英皇午餐を賜ふ 英國皇帝陛下は此度使節として日本に差遣せらるゝコンノート公爵殿下及び其一行に送別の午餐を賜りたり

●茶稅反對の運動繼續 英國に於ける茶稅反對の運動は豫算案の議會に提出されし迄繼續せり

●總選擧競爭激烈 總選擧の競爭は益々激烈なり

●伊國新聞の排獨 伊國一部の新聞紙は著しく排獨的にしてミラノ市發刊のセエアロ新聞は獨國が如何に新聞紙上に於て公言する所あるも今や同國は全く孤立して再び舊時の獨裁的意思を以て他國の外務省を動かすこと能はずと言明せり

●バンナマン氏の當選 首相バンナーマン氏は反對候補者が病氣にて手を引きし爲め反對なくしてスターリング市部より衆議院議員として再選されたり

(以上一月十一日發)

●元老院議長の再選 ファリエル氏は佛國元老院議長に再選されたり

●社會民主同盟會の宣言書 社會民主同盟會はジョンバーンス氏を以て裏切者と認むる旨の宣言書を發せり

●英親王出發と勳章 コンノート公爵殿下は日本に向つて出發されたり、同殿下は英國皇帝陛下より大山元帥東鄕大將及び山縣元帥に贈與するオルダー、オブ、メリット勳章を携帶すへし

(以上一月十二日發)

雜報

●世界各國の帝室費 我帝室費は毎年三百萬圓を議會より上れるが國運の進步と共に帝室費の增加は當然の義なるに我皇の自ら儉にして下を率ゐさせ給ふの厚き帝室の御費用年一年に嵩み行くに拘らす未た何等の御加增も無きは聖旨の程畏しともかしこし今世界各國帝王の年給なりといふを漏れ聞くに世界にて最も富裕に在らせらるゝは露國皇帝にて二千萬圓次は土耳其帝一千五百萬圓次は波斯帝一千三百二十七萬圓次は墺太利帝九百四十萬圓次は獨乙帝七百七十萬圓次は伊太利王六百萬圓其次は英國王五百三十一萬圓にして土耳其帝の如き專ら奢侈の用に供せらるへき二三半亡國の帝王を除ては世界の强國に帝王たらせ給ふ者皆我帝室費より多からさるは莫し我皇の御儉德益々仰きて益々尊し而も是れ臣民の默々に附すへき所ならんやとは或老子爵が熱誠の言なりとぞ聞えし

●兩全權へ勅語 日淸談判に際し折衝の任に當れる小村内田兩全權に對し去る七日を以て左の勅語を賜はりたり

最近に露國と締結したる講和條約に起因し並に滿洲の善後處分に關し淸國政府と協定を要するものあり乃ち卿等に授くるに全權を以てし淸國代表者と折衝の局に當らしむるや卿等愼重事に從ひ克く其任務を盡せり朕深く之を嘉奬す

●獨淸條約の改正 淸國駐在獨乙公使は此程外務部に至り其本國政府の通牒に依り淸獨條約中左の箇條を改正せんことを申し出でたりといふ

一、獨乙人は其便宜に從ふ淸國各地方に居住し商業を營むを得ると
一、獨乙人は淸國內地各岸に航行するを得ると
一、淸國內地に在る開礦事宜を改正すると

●慶邸危篤の風說 身は王室の懿親に當り中外の樞機に參與し淸國の安危を一身に荷へる和碩慶親王は老來體力漸く衰へ已に日淸交涉全權委員と爲りても兎角缺席勝なりしとは世人の知る所なるか頃者又々病蓐に在り病勢次第に亢進して或は危篤に瀕せるやの風說あり淸國兩宮には殊に宸念を惱ませられ五日間の休暇を賜はり十分保養すへき旨の內命ありたる由なるか今聞く所に依れは單に老病に過ぎずして昨今遽に大事に至るとは之れ無かるへしと雖も攝養最も戒心を要すとなり吾人は一日も早く其快癒を望みて止ます

●京城に大新聞起らん 日韓協約締結後は韓國に於ける帝國の地位昔日に比すへくもあらされは諸般の施設を要する次第なるか今回京城に一大新聞を起すの計畫あり主幹は元東京日日新聞主幹朝比奈知泉氏なりと云ふ數多の小新聞を以て充されたる韓國に斯の如き大新聞の起るは對韓經營上頗る必要なりと云ふべし

●陶大均氏の赴任 新任奉天驛巡道陶大均氏は或は楊公使に代りて日本に赴任すへしと傳へられしが兎に角一先づ現任地に莅任することに決定し九日北京を發し天津に立寄り赴任せりといふ

●露國の議事堂 露國にては本年度早々開會せらるへき國民議會は露都のタウリーチェスキイ宮殿に於て開會するに定り已に室內構造の改築に着手したる由なるか此國民議會本議事堂は宮殿の大廣間を以て充て約六百名の議員席を設け外に議長、國務大臣、議會書記官、速記者幷に新聞記者等の特別席を造り自餘の各室は議會の各部會議室、議長室、事務局等に充つる筈にて其改築費用は約十万留の豫算とし一月中旬までに竣工すへき見込なりと云ふ

●淸官敍任

任兵部尙書 呂海寰
任都察院左御史 陸寶忠
任大學士 那桐
任學部尙書協辨大學士 榮慶
任順天府尹事務 張百熙

●嚴侍郞の日本視察 學部の嚴侍郞は學部の組織をして完全ならしめんか爲め今回自ら日本に赴き文部省の章程組織を調査する事となり歸國の上は直ちに之を學部に應用する筈なりと云ふ

●新印度太守ミントー氏傳

印度の我邦に於ける、均しく東亞の局面に位すと雖も、而も東西相隔絕せるの甚しき、從來兩者の關係は僅に一二貿易上の媒介によりて之を聯結するに過ぎざりしか、客歲日英新協約の成立してより、印度は同協約を組織する主要の條件と爲り、印度と日本とは是より始めて政治的に其關係を密接にすると爲り印度に關する吾人の注意は遽然として緊要を加ふるに至れり、此に新春紙上に於て特に新印度太守ミントー氏を傳するは、日英新協約の結果として、吾人の聽の印度に向ひて注がれさる可らさる機會の屢次なるへきを思へは也

新印度太守ミントー氏

新印度太守ミントー氏は、則ち前太守カーゾン氏を傳する、カーゾン氏は一千八百九十八年を以て、職に太守の任に就き、在職八年の久しき、銳意治績を求めて印度舊日の情形之か爲に全然一變し、一時名聲宇內に藉甚たりしも、而も陸軍改革問題に關して總司令官キッチナア將軍と其意見を異にし、又印度事務大臣ブラドリック氏とも政見相合はす、遂に挂冠して野に下り、爾來閑雲野鶴の人と爲れるが、近の倫敦電報は則ち氏を倫敦代表の國會議員候補者に推薦せんとし、全く黨派的私心を離れて國家的に名士を優遇すへき所以の意思を貫徹せんことに運動しつゝありと傳へぬ、カーゾン氏たる者敗れたりと雖も亦以て其志を慰するに足る代りて印度に新太守となれるミントー氏、亦技倆と材幹とに於てカーゾン氏に下らす、且つ其出名門よりして最も閱歷に富み、才名嘖々、已に夙歲より世に知らる、蓋し家門世々政治家を出せるを以て早に私淑する所あるを以てなり、業成るの後、書卷を擲ちて陸軍に入り、大に其驥足を伸はさんと欲す、而も當時海內承平、雄圖を抱くと雖も、志一も酬ゆるを得す、荏苒日を送くりしが、遂に斷然志を陸軍に絕ち、職を辭して巴黎に遊へり、是れ實に一千八百七十五年なり。此時に當り佛國將に獨國の破ふる所と爲り瘡痍未た愈えす、巴黎の人心尙動搖して何時風雲の變を見るも知るへからさりしが、ミントー氏偶然此機會に遭遇し、其風雲變幻の態を見て躍躍深く自ら喜ひ、因りて英國モーニングポスト軍事通信員と爲り、筆を載せて西班牙に赴く、時偶々同國カール黨の大亂に遭ひしを以て、氏則ち身を以て、通信員の職に任し、屢々死地に就きて其情況を探悉し、縱橫描寫、一絲を遺さす、日々郵送して之を新聞社に致す、讀者坐なからにして猶其境に臨むか如く、一時最も人の耳目を動かせりといふ、後五年にして露土戰爭あり、ミントー氏遂に劍を提けて起ち、走りて土軍に投し、大に露軍と戰ひ最も勇名を顯はせり

一千八百七十九年ロバーツ將軍に從ひ、阿富汗に戰ひ、後二年を經て又南阿戰爭に從軍し其明年埃及に赴き、アラビパシアの兵戰に參加し、奮鬪竟に傷を受く。

一千八百八十三年加奈陀太守ランスタウン氏の下に在りて其書記官と爲り、暫く文書を司りしが、越えて一千八百八十五年、加奈陀リル私に黨を結ひて叛亂を企てしを以て、氏乃ち征討參謀長を以て出陣し、連戰大に敵軍を破り、竟にリルを生擒しぬ。是れよりミントー氏又再ひ銃劍を投し、任に加奈陀太守の要職に就き、其圓滿の才、敏達の識能く紛々の政務を處理して、治績大に著はれ、令名を遠く四方に傳播せり、加ふるに內に良配のあるあり、才色雙絕、氏一半の成功、夫人の力に埃つや多し。夫人はグーレ將軍の女にして嘗て伊太利女皇に奉仕せることあり、恩寵尤も渥かりしといふ、ミントー氏容貌端麗婦人の如く、而して一片威嚴の犯すへからさる者あり、若し英國紳士の典型を求めは、ミントー氏の如き則ち其人也。カーゾン氏去る、乃ち昨年九月を以て代りて新印度太守の印綬を帶ひ、十月カルカッタに入る、其靈活の巨腕、其明敏の達識知らす將た如何にか我日東に映射し來る。

●鐵嶺居住と邦人 屢電の如く開放後當地に入れる邦人は既に三百名に達せるが元來家屋缺乏の爲め一軒の家屋に向ひ數人の競爭者あり爲めに家主は强氣と爲りて高率を唱へ前途底止する所を知らす再び營口の二の舞を演せんとする光景にして遂に軍憲は是迄居住認可を得たる者に非さる限り家屋の貸借關係を認めす總督府側に在りては鐵嶺に家屋を所有する者に對しては居住營業を認可すとの方針を取り來り自ら新認可者を杜絕する傾なりしが屢に認可されたる四十餘件の營業者中旅宿業雜貨商各種飮食店の如き準備着々進捗し現に營業を開始せる者多く隨て軍憲取締の方針も確立せしものと見ゆ鐵嶺軍政署は告示第二號を以て左の如く發表せり

關總副政第六四號關東總督府管內渡航者旅行取締規則に據る旅行者にして他日鐵嶺に居住する目的を以て土地家屋を借受けんとする時は鐵嶺居住本邦人取締規定第一號第二章第八條の趣旨に準し軍政署に屆出承諾を受くべし

參照

第八條居住民隨意契約に據り土地家屋を貸借し或は他人の家屋に同居する時は所有主又は家主と連署を以て軍政署に屆出べし

●一昨夜の逆襲紀念宴會 昨年正月十二日に於ける露國騎兵の逆襲は如何に我在住同胞を驚かせしよ當時若し勇敢なる我軍の奮鬪なかりせは在住同胞の危險や測る可らざりしものあらん幸にして宮崎司令官與倉長官の畫策宜を得遂に優勢なる敵騎を擊退することを得たり此恐るへき當日を忘れさる爲め逆襲紀念宴會は與倉長官主催の下一昨十二日午後七時官舍に於て開かれたり列席者は滯營中なりし山根鐵道總監石川技師長一行を始め軍政署員領事館員及居留民の重なる人々にして金城館の藝妓仲居は女將指揮の下座間に斡旋す獻酬熾んなるや與倉長官起て挨拶を述へ且つ山根少將の健康を祝せられたれは山根少將起つて曰く逆襲紀念會に列席したるは余の最も光榮とする處なり當時敵騎の逆襲たるや實に容易ならさる大事件なり啻に營口の危急のみならす我滿洲軍に對する一大打擊なり否な我日本國に取り深刻なる苦痛なりしなり此報一たひ傳はるや滿洲軍の將士は勿論日本の當局は非常に心配し其勝敗如何を注視せり然るに我守備兵の勇敢なる防戰と上長官の機宜に適せる指揮とに依り遂に優勢なる敵騎を擊退するに至れり是れ豈に大功勳にあらすや與倉長官の催しにて紀念會を開かるゝは至當の事に屬す余は謹んで勇敢なる各位の健康を祝すと酒間當時の狀態を談する人あり避難民の狀況を談する人ありて孰れも懷舊の念に堪へるものゝ如し去年の今頃は砲聲耳を劈きスワや敵騎に蹂躙せられんかと競々たりしも今年の只今は佳肴前に在り美人後に在りて太平樂を唱ふ顧みれは夢の如しと嗟嘆せる酒客もありき聽て餘興の時刻となり一同醉步蹣跚として餘興席に到る當夜は金城踊りにて數番の手踊りあり孰れも中京東京の仕込みの姉さん達なれば引く手差す手のあざやかさ得も云はれじ花に譬ふれば第三踊りは艶麗なる牡丹花なり金城踊りは淸楚たる梅花なり牡丹を愛づる粹士もあるべく梅花を手折る墨客もあるべく梅と牡丹を兩手に眺むる風流人士も尠からさるべし山根少將一行も頗る悅に入られたる如く最後まで見物せられたり愆て主客歡を盡して退散せしは十一時頃なりき

●遼河結氷又々融解 頃來の寒氣により一たび氷合して人馬を通するに至れる遼河は昨日の暖氣にて又々融解し始め再び支那ヂャンクの運航を見るに至れり一寒一溫天何ぞ奇を弄するの甚しき

●報恩講法要說敎執行 從來本願寺より當地へ派遣せられ居りし布敎師は西營口火神廟街內に駐在なし居りしに今回布敎上の都合に依り先日永世街矢野洋行向側の家屋へ移轉せし由なるが當地居留民中には本願寺に緣故ある信徒は其の多數を占め居るを以て明十五日及び明後十六日の兩日間毎日午后一時及び七時(營口時間)の兩回本願寺例年の舊儀に依り宗祖見眞大師の御正忌報恩講法要を執行して寺本布敎師より說敎ある由なり尙ほ因に來る二十一日の日曜日よりは毎日曜午後一時及び七時(營口時間)の兩回日曜說敎を開始する由にて此の冬籠の時期は尤も信念の修養に適當の時期なれば有志の諸兄姉は進んで洗除心垢の菩提の道場に參詣して佛陀無限の悲智圓滿の福音に接し大に信念の修養を希望するとのことなり

●日淸實業協會第一次總會 創立以來日淸兩國委員は規則其他に關し種々盡力中なりしが二三先づ整頓したれは本日午后一時より日本人會に於て第一次總會を開く筈なり日淸委員に於て協定したる規則草案を提出して總會の承認を得る筈なれは日淸兩國會員は悉く出席を望むとなり

●山根鐵道總監の出發 滯營中なりし鐵道總監山根少將及石川技師長の一行は昨日午前十一時二十五分牛家屯發滊車にて奉天に向け出發せり

●藝妓糸代の値下げ 一昨日營口料理店旅館百余軒の連中其組合總會を第三樓に於て開催せり抑も當度の集會は藝妓糸代の値下にして種々議論起り甲の料理店は從前通り三圓說を固守し乙は二圓說を主張し丙は半額即ち一圓五十錢にすべしと言ひ不景氣の今日中々議論應なりしも結局來る廿日より一時間二圓四十錢に値下げすべく協議纏りたりと云ふ

某粹客曰く糸代の値下げたるや言ふ迄もなく一般不景氣にて自然登樓客少なきが爲めの値下なるべし然らば姑息の値下をなすよりは大奮發をなして宜しく半額にすべし大体組合連中等の遣り方は吾輩大に了解に苦む所なり何となれば客なる者は料理店に登樓したる上は懷中の勘定をなして行く者は甚稀にして所謂狂酒の本旨に違はず大盡となり紳士となり大言壯語を吐き無理難題を持ち懸けて藝妓仲居等を苦むを以て愉快とし登樓するものなり然れども一時間三圓の糸代を請求せられては少々閉口垂れる人なきにしもあらず否大にあるべし爲に五度登樓するものは四度となり三度となり二度となり終には見合せとなるは之れ人情の然らしむる所畢竟一度に多額を貪るは大名娼賣にて薄利以て數でこなすと云ふ方面を知らざる愚者の業なり宜しく今一度組合集會をなし是非半額迄に値下すべし尙一つ注文を望むは例の沈沒料にして一夜に軍票大枚十圓乃至十五圓甚しきは二十圓三十圓を請求す何と驚くべき話ならずや之れも宜しく半額以下にすべし呵々と

火車發着時刻表

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝幇子	上 六、〇〇	上 九、五七
營口至山海關	上 八、二〇	下 六、〇〇
山海關至唐山	上 一二、一八	下 六、二〇

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上 八、〇〇	下 六、二〇
北京至天津	上 一一、二〇	下 五、四一

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間 下り列車

驛名	發着	時刻
大連	發午前	九、〇〇

上り列車

驛名	着	時刻	發	時刻
遼陽	着午後	三、五〇	發	四、五五
大石橋	着	一〇、三二	發	一一、三五
金州	着翌前	二、二〇	發	三、一〇
大連	着	五、三二		

上り列車

驛名	發着	時刻
旅順	發午後	二、〇三
大連	着	五、三一

營口線 下り列車

驛名	發着	時刻
大石橋	發午前	一、〇〇

天氣 營口地方 自昨日午後六時至本日午後六時

雜報

●遼陽通信

日本人會組織以後の事業

▲設立 本會は平尾兵站司令官の斡旋に因り本年九月二十二日城内西街兵站司令部宿舎に於て設立會を開く會する者八十餘名平尾司令官、小山憲兵長住民係福永曹長等臨場せられ小山憲兵長を座長に推し別項會則を審議し尚今期に限り役員は座長の指名推選てふ決議をなし因て座長は十七名を指名選出し更に其中より正副會長を互選せしめたり

會長 海南右門　副會長 清水友三郎
評議員 井上鶴吉　山本誠陽　古谷庄太郎　永瀬宇吉　林堯賀　高野邦基　橋本鐵次郎　谷口今朝太郎　高田雄民　溝上巳之助　池上清太郎　木村常吉　石光幸之助　小川信雄　古森藤次郎

▲會場 本會は當事務所を城内憲七一號兵站部宿舎内に置きたりしか公衆の便を圖り更に西二街憲一八號軍政事務所構内の一棟を借り受け會議室事務室控所等に修繕を加へ爰に移轉し居住民は勿論視察者旅行者等一般邦人の爲め直接間接に便利を與ふる事あり

▲病院 始め斯地の開放せらるゝや幾多邦人は先を爭ふて居住營業を企てたりしが就中新開地の常として旅館料理店業者大部分を占むるを以て撿黴所の必要を見るに至り當初は北門外遼陽乙七十五號に假設し全く兵站司令部の經營なりしか本會創立と倶に本會の專屬に歸す因て本會は更に六十五號、六十六號、六十七號、の三棟を借り受け改築を加へ玆に移轉し日本人會附屬病室と稱し新に浴室、炊事場、藥局、醫務室等を設備し其要したる費用巨額に達す尚は開業醫桝谷治三吉を聘し本會の囑托醫となし專ら治療監督の任に當らしむ入院患者平均六十名位なり十二月十五日兵站司令部の所管に復歸したれは本會は之を引渡したり

本會は完全なる病院を建設せんとして目下計畫中なれは日ならず着手の運に至るへし

▲經費 別項會則に示す如く會員より毎月銀三十錢を徵收すれとも現時幾多の公共事業に投し且つ發展しつゝあれは自然經費の不足を告くるを以て會員中有志者より維持費として寄附金を募集す已に應募せし者數千圓に至る

本會發會の節は會員僅かに一百餘なれとも今や會員一千名巳上に至る尚は今後遼陽の日本的發展すると共に其增員を見るや必せり

●關東總督府管内 輸送營業規則

去る十二月二十七日附を以て關東總督は同總督府管内に於ける輸送營業規則を制定發布せり其全文左の如し

輸送營業規則

第一條 本規則に於て輸送營業と稱するは鐵道(輕鐵を含む)船舶牛馬車橇等に依り營利の目的を以て旅客貨物を輸送する營業を云ふ

第二條 輸送營業を爲さんとする者は居住地軍政官若くは兵站司令官を經て左記の事項を記載したる願書二通に戸籍謄本を添へ關東總督に差出すへし
一、營業の區域
二、營業の方法
三、營業の種類
四、資本額 (證明書添付を要す)
五、營業主任者の經歷

第三條 軍政官若くは兵站司令官前條の願書を受理したるときは出願者の身元其他の事項を調査し許否に付自巳の意見を附し總督に進達す可し

第四條 輸送營業は左の條件を具備するに非されは之を許可せす
一、身元確實なる者
二、三万圓以上の貨本を有する者

第五條 輸送營業を許可せられたるときは一ヶ月以内に指定の保證金を納む可し
前項の期間に保證金を納付せさるときは營業の許可は消滅す

第六條 保證金納付前に在りては營業に着手することを得す

第七條 一局地内に於ける小規模の輸送營業に在りては第四條第二號及第五第六の規定を適用せす

第八條 關東洲内の居住者にして輸送營業の區域か同洲内に限られたる者は民政長官の定むる所に依る

第九條 輸送營業の許可なくして營業の區域方法種類等を變更し又は第六條第二項の規定に違反したる者は直らに營業の許可を取消し情狀に依り當府管内區外に退去を命し又は百圓以下の罰銀に處す

額書樣式

輸送營業願 (用紙半紙界紙)

私儀今般左の通り營業仕度候間戸籍謄本相添へ此段御願申上候也
一、營業區域 (例へは大連鐵嶺間又は營口小塔子間等支店本店出張所等を設置すへき場所又は一局地に限るものは其地點のみを記載する事)
二、營業方法 (例へは鐵道に依るか船舶に依るか又は馬車……に依るかを記載す)
三、營業の種類 (貨物を目的とするか旅客を目的とするかを記載す)
四、資本額 (別紙として證明書を添付し本行には資本は別紙證明書の通りと記載すへし)
五、經歷書 (別紙として添付し本行には單に別紙の通りと記載すへし)

原籍及居住地
年月日　氏名印
年月日生
(關東總督爵某殿)

東西叢話

▲奇なる遺言 巴里大學教授化學博士ユリーシュなる人、子なきを以て死するに臨みその財産全部七万五千法を市立博物館に寄附し他の家財道具は寢臺、襯衣、紙類、化學器械より櫛、楊子に至るまで鐵の箱に入れ密閉して二百年間保存すべきを遺言したり是れ二千百一年に至りて之を開き現に其室内に配列しある如くに再び配列せしめ二十二世紀の子孫をして現世紀に於て化學が如何にして生活したるかを知らしめんとの主旨に出でたるなりと云ふ

▲落涙の競爭 米國にては種々の競争流行して危險なるもの笑ふべきものある内に市俄古市なる上流社會の婦人連は落涙の競爭を思ひ立ち立會人百五十人を會して開會したるに十九歲になれる妙齡の美人競爭に優等點を得て賭金百弗を得たり同孃は毫も人爲的の方法所作を用ゐずして五分時に三十一滴の涙を流したりと云ふ

▲一千萬弗の大寄附 北米の石油王ロッグフェーラー氏は此程同國教育總務局へ托し一千萬弗を高等教育に贈與したるが同局に支拂はれたる金額は八枚の引出切手八通にして内六通は一枚百萬弗宛殘り二通は各二百万弗宛のものにして夫れ〳〵有効なる信托會社に預けられたり右教育基金より收入すへき年額は五十萬弗にして斯の如き巨額の寄贈は合衆國内未た曾て其比を見ざる處なりと

廣告

●報恩講法要執行
說教 十五日十六日兩日間毎日午後一時及七時(營口時間)
信徒の御方々へ一々御案内狀可差上箸の處紙上にて御案内申上候間御繰合御參詣被成下度候也
一月十四日　永世街　矢野洋行向側
營口本願寺出張所

來る十七日午後三時より二本町日本館に於て第二回臺灣溫故會を兼ね新年宴會相開き候間會費銀四圓御持參御出席相成り度候也
臺灣溫故會幹事

特別廣告
一月十二日營口旅館料理屋組合總會に於て協議の結果左の通り決議す
一藝妓線香代 一時間銀貳圓四拾錢
但一月二十日より實行す
右之通り改正致候に付組合員に於ては誠實叮嚀を旨とし各店異動なく一定の價格を可申受候に付舊來に倍し御引立の榮を賜らんとを伏て奉願上候依て此段及謹告候也
一月十三日
組合
正取締 谷口今朝太郎
副取締 粕谷忠兵衛

●新荷着
有名なる(ゼルマチン)ストーブ ストーブ界ノ大王
防寒用 シャツ、ズボン下、皮帽子、毛皮帽子、防寒服、手袋 冬季用窓掛類品々
右は皆歐洲より輸入ノ最良品廉價にて販賣致すべきに付き御縱覽を乞ふ
加藤洋行隣 ウ(井)ンクラー商會

新到洋貨告白
啓者本行專運歐美各國進口世界有名之日耳曼爐、禦寒必全之洋汗衫、洋褲、手套帽子、毛皮帽子、皮衣、毛布冬日所用窓簾各貨、無不齊 價值格外從廉如需中外貴官商賜顧者請移玉至元神廟加藤洋行西側本行賬房面談
批發 榮富洋行

特別室落成披露
座敷は凡て日本式取扱主極鄭重に可仕候間陸續御來宿あらんとを伏て奉希上候
金城ホテル 旅館部

藝妓仲居 新來披露
今回藝妓酌婦無類の別嬪數十名件れ參り候間不相變御引立の程奉願上候
但し凡て純粹の江戸つ子
金城館料理部

會席料理 營口警務課前南に入る 三日月

北京 東單牌樓大街路西 扶桑旅館 客室清潔料理鮮新

雜貨卸商 在元神廟營口街 關東公司雜貨部

雜貨 醤油 味噌 清酒 營口西北街 阪神組

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町 日本館本店 (電話百三十番)
奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店
各位樣

御旅館 天津 芙蓉館 駐屯軍御用 並西洋料理 (電話四十一番)

奉天日本旅館 瀋陽館 家屋宏壯清潔 接待優遇懇切 開放全時二開業 奉天小西門外大街路北

藝妓仲居 新來御披露
此度新たに内地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候 草々
營口 高砂ホテル 高砂 (電話一四五)

●大連東洋ホテル 大連鐵道停車場附
●大連東洋ホテル 近民政署前通り兒玉町に在り 四階建にして而も
●大連東洋ホテル 高地に建設しあるを以て大連港灣の山水及大連市街の光景は一望の下にあり
●大連東洋ホテル 和洋客室の設備あり内外貴賓の宿泊に適す

御旅館兼待合所
並にうどん、そば
今般大々的勉强を以て右營業仕候間御乘降の都度御休泊被下度奉希候
牛家屯停車場前 若松家
各位樣

料理 鋤焼 營口元神廟街 喜楽亭 亭主 元權 拝

萬事勉强乘車乘船好位置 營口中央市場前 旅館 東京樓 店主 熊田兼次郎 (電話百七十八番)

西洋料理仕出し御需に應ず 即席和洋料理 東京樓支店 (電話四十四番)

Yano & Co.

矢野洋行

Telephone No. 137　電話一三七

諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

満洲大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店へ御來店アリタシ

遼陽停車場前　池上出張店

奉天　池上出張店

謹賀新年

博文館營口代理店

書籍、銘茶、賣藥、雜貨商

大坂屋

今般永世街通平野町筋へ轉居し一層安價に販賣致候間舊に倍し御用命の程奉願上候

本家　日本東京神田鍛冶町　堀内大藥房

淺田飴（あさだあめ）

特約大販賣　營口永世街　東瀛大藥房

肺痨痰喘氣急傷風寒嗽小兒風寒病後體弱肺病一切立見奇功

◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかせ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

標子　木板　發賣　料木

營口青堆子

清水寧木局

澤龜醇良にして風味高尚なり

並ニ　札幌ビール　朝日ビール　政府專賣口付紙巻煙草　朝日　大和　酢　醬油　瓶詰樽詰　菓子　罐詰色々　洋酒類　取次販賣

釀造發賣元

大阪府堺市九間町　本店
北海道小樽湊町　小樽支店
臺灣臺北街書院　臺北支店
臺灣基隆街石牌　基隆支店
臺灣臺南街下南河　臺南支店
北海道函館區辨天町　函館出張店
清國遼陽城内西街　遼陽出張店
清國大連監部　大連出張店
清國牛莊海東營口　營口支店

合名會社　宅

日用品雜貨　軍隊用雜貨　吳服太物類　化粧品類　陶器類

御小賣

其外種々新荷着精々安價販賣

營口永世街百七十三號第二市場東側

石原商店

稲正宗

◀稲正宗ハ灘御影町河東本家ノ釀造ナリ

◀稲正宗ハ營口盛進商行ノ特約酒ナリ

◀京印醬油　◀木材

白毛布　毛蒲團　旅行鞄　帽子類　筆墨紙　罐詰類

酒保品一切

盛進商行

SPECIAL LIGHT

(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり

スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり

スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり

釀造元　大阪朝日麥酒株式會社

營口發賣　關東公司雜貨部

工

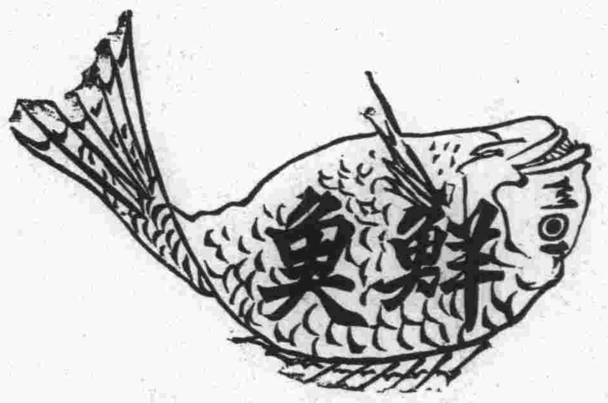
營口元神廟前

飯塚工程局材料部

（電話百三十五番）

弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候

一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種



弊店儀雜貨專業之處今般營業務擴張の上日本は勿論滿洲に支店を設け併て鮮魚の御小賣充分勉强の上御用達可申候間倍舊の御用命被仰付度奉願上候

敬具

營口南永世街百廿七號　◇森屋洋行

大連大山通リ二丁目　仝支店

遼陽西門外　代理店　林洋行

奉天小西門外　代理店　米田洋行

御德用品　新荷着急告

○食料罐詰○

○塩魚干魚鰹節○

○乾物色々○

○亀甲万印醬油○

○赤白味噌○

○菓子類数種○

○銘茶各種○

營口永世街警務課前南へ入

林屋洋行

御旅館

奉天　小西邊門内路北

茂林館

追テ日本物品依托賣買幷ニ滿洲各產物毛皮類ノ求ニ應ズ

家屋宏壯接待優遇

宮門抄

十五日

禮部 太常寺 正紅旗値日無引 見 肅王因冊封側福晉謝 恩 那中堂謝充會辦大臣 恩 張亭嘉謝授副都御史 恩 湖南知府張元奇謝 恩 溥侗由 東陵回京請 安 克王續假五日 王中堂請假十日 延秀續假十五日 王慶平伺候召見

召見軍機 王慶平 張元奇

皇上明日卯正二刻至

大高殿拈香

十六日

兵部 太僕寺 廂白旗値日値年旗引 見三十四名 徐世昌鐵良謝授軍機大臣並賞穿帶膝貂掛 恩 阿公假滿請 安 熙瑛續假十日 內務府奏派管理犧牲所

派出繼祿 兵部奏派更換八旗値年之王大臣

派出鄭王 兜欽 伊立布 溥公 祥普 達公 世中堂 松鶴

召見軍機

上諭恭錄

十五日奉

上諭巡警部尚書徐世昌戶部尚書鐵良均着補授軍機大臣並加恩賞穿帶膝貂掛欽此

上諭明年正月十三日祭 祈穀壇朕親詣行禮

上諭明年正月初八日孟春時享 太廟朕親詣行禮 後殿派載灃行禮兩廡派英俊立瑞 各分獻欽此

上諭李經羲奏甄別屬員據實舉劾一摺廣西慶遠府知府王祖同中樂府知府徐宗蔭全州知州唐爾琨平樂縣知縣樓守愚岑溪縣知縣志宗署柳城縣事補用知縣王爲穀柳城縣知縣蔣航修仁縣知縣呂鑑熙博白縣知縣譚鄰華新寧州知州賴宏灌陽縣知縣張祖寅署東蘭州知州試用知縣易振興署賓州知州試用知縣吳永治均着傳旨加獎歸順直隸州知州張杲濫保匪人簠簋飭壞集縣知縣陳禮虐厥取巧以術濟貪試用縣丞易汝恒侵蝕土稅私售印花試用巡檢葉再興假公婪索嚇詐良民均着革職永不叙用易汝恒並着歸案訊究代理思恩府那馬通判分省補用同知沈瑞麟招搖舞弊毫不遠嫌恩隆縣知縣王宗沂縱丁滋弊籍匪苛罰試用州判歐陽文靜嗜賭好利有玷官箴試用縣丞范家祜才康性鄙操守難信臨桂縣典史刁炳榮需索囚費聲名素劣均着即行革職署凌雲縣知縣分省試用知縣楊湛華性情浮滑沾染習氣前署羅城縣知縣候選知縣張紹元貌誠內詐治理多乖均着以府經歷縣丞降補准補寧明州知州李肇鈞庸朽無能形同木偶着勒令休致富川縣知縣李恒春性情柔軟才具短絀荔縣知縣陳修才力竭蹶難勝煩劇藤縣知縣呂篤迂拘自固展布無才均着開缺查看餘着照所議辦理該部知道欽此

十六日奉

上諭世續着授爲東閣大學士那桐着授爲體仁閣大學士欽此

奏議

商部奏職官辦事朦混藉端招搖請 旨懲辦以肅商政摺

奏爲職官辦事朦混藉端招搖請 旨懲辦以肅商政恭摺仰祈 聖鑒事竊於光緒三十一年十一月二十八日由內閣抄出吉林將軍達桂等附奏記名副都統即補叅領瑞徵辦理吉林工藝廠虛糜浮冒一片奉 硃批該衙門知道欽此查原奏內開吉林前因開辦工藝廠經前將軍長順委派瑞徵前往粵滬等處集股曾附片具奏在案嗣該員來稟欲謀爲議員署將軍富順因其股欵曾否招妥未據稟報不即咨派是以前准商部電詢議員之事富順曾以似無把握之言咨覆迨奴才達桂接任後據該員面稟已在本省就地招股建造工局房屋並擬造廠屋等語詎該員事事蹈空並無切實辦法所蓋局房規模狹隘而所謂廠屋則全屬子虛迭經奴才飭令將所招股分若干支用若干逐一聲明以憑核辦去後詎該員輒欲赴滬催股並因奉到商部咨吉轉發批駁之稟更深悻悻遽將關防呈繳潛自出省去後遞到清單三件諸多含混而虧空已有銀二千數百兩其中虛糜浮冒不卜可知該廠雖無官欵惟旣係招商公司集股自有定章不應雜亂如此該員擅自遠離殊屬荒謬相應請 旨飭下商部並正黃旗滿洲都統如果該叅領瑞徵到京飭其迅速回吉清釐等語查該員瑞徵前於光緒三十年二月間曾在臣部條陳東三省鹽務當經批飭就近呈明地方官核辦嗣於是年十二月間該員復具稟臣部並稱奉吉林將軍咨請派充商務議員於十月二十六日由京赴吉任差等語查臣部商務議員係奏明由各省將軍督撫遴員咨部酌核給劄派委該員瑞徵臣部並未接准吉林將軍咨請劄派議員之案接閱來稟深爲詫異當經電詢吉林將軍究竟曾否咨請劄派去後旋准覆稱前當該叅領瑞徵由京投効來吉經前將軍長順附片奏派總辦工藝廠事務並無議員字樣該員現雖回吉究竟集股多少未據稟報似無把握等語臣部當即嚴詞批斥乃該員曉瀆不已本年四月間復將辦理工藝廠情形稟陳臣部並請奏咨立案臣等察其情節支離當經批駁著不准行並申飭一切公牘自應稟候吉林將軍核奪咨部辦理一面將迭次駁斥各節先後咨明吉林將軍查照轉飭各在案現在振興商務招商集股信用攸關豈容不肖官員任意妄爲毫無顧忌該員瑞徵前自擅稱臣部商務議員臣等即知其不實不盡特以未得確據未便遽予叅處茲據吉林將軍達桂等所奏該員招股建廠及製造貨物各節全屬子虛兼復冒支欵項核其情事實屬有意朦混若不嚴予懲辦實與臣等提倡商業實事求是之意大相剌謬且於嗣後招商等事尤多阻碍相應請 旨將花翎副都統銜記名副都統即補叅領瑞徵先行革職由正黃旗滿洲都統嚴密查拏押解回吉以憑究辦所有職官辦事朦混藉端招搖請 旨懲辦緣由理合恭摺具陳伏乞

皇太后

皇上聖鑒訓示謹 奏奉 旨已錄

中外要聞

●俄使館接本國來電 俄館日昨接該政府來電係詢璞公使知否中日議約要件並詢及肅邸查辦事件何日起程探悉的確作速電覆等語聞璞公使擬親拜肅邸慶邸探詢此事

●慶邸擬辭議俄約差 官場最近消息慶邸曾向政務處宣言 皇太后如派本爵中俄議約之差本爵必定辭却

●鐵路學堂積弊 東清鐵路學堂監督塔克什訥每年侵吞學堂經費銀二萬兩其卒業學生若無私餽均不給文憑其教習學生曾稟知璞公使設法辦理因璞使每倚塔某在外部訪事所有學堂之稟件均置之不問云又聞東清鐵路學生憤恨塔某如再無處伸理將有公請退業之舉云

●議築熱河鐵路 日前外商部議築熱河鐵路曾經電商熱河都統昨聞覆電該都統已派員履勘據稟稱由熱河至京若修路段毫無窒礙估需欵項現已邀集紳商合股修辦儻欵有不敷請由圍場押荒項下提撥一俟籌欵就緒即於明春開辦

●機密宣洩 內廷消息 太后每覽新聞紙多有宣洩機密及未發之件昨召見軍機大臣垂論現値內政外交諸事繁冗嗣後遇有極關機秘重要事件均著繙譯滿文進呈應降密旨亦用滿文發交以免宣洩而昭愼重云云

●會訂商標 昨聞外商兩部大臣會議商標速期訂妥以便請某國公使到部閱看訂期簽押

●俄教之運動 俄國駐京主教與璞公使議商東清鐵路學堂內各生設法收羅入教並商添肄蒙文云

●商部擬定惜債律 聞商部以中國借貸私債利息不一時有畸重畸輕之弊現在整頓財政之際亟宜明布律條以示劃一而資保護聞日內即繕摺奏請頒行飭遵矣云云

●學務事必劃一 外務部致駐日楊欽使公文咨稱嗣後凡關涉學務一切事宜當直與學部尙書交接矣云

●電催陶觀察 聞趙次帥因奉省交涉繁要迭有電催新簡驛巡道陶觀察速行赴任刻聞觀察擬於日內起程赴奉矣

●設裁判所之消息 警部議在京師設立裁判所專司地方詞訟以及中外交涉之件並延請熟於西律人充當裁判員以昭平允

雜報

●日清實業協會第一次總會 該會創始以來經中日兩國委員互相討論其章程刻已脫稿因於本日下午一鐘在日本人會樓上開第一次總會特出該草案以俟中日兩國委員之承認即定爲本會章程云

●日本戶部彩票出售 此次日本戶部發賣彩票其得頭彩者即日前本埠正金銀行所募集之卜號（按卜號即照日本字母所列字數）之第一萬零一百二十六號也如有得此頭彩者即向本埠正金銀行面訂取銀一切事務可也

●發來新式軍械 刻下各處軍隊恭將舊式軍械收回由南洋發向北洋新式槍刀若干箱袁慰帥轉發向奉天等處聞河北朱子樵統領營所領新式槍刀皆稱精妙云

叢談

●學究 學究某擁臯比於三家村固皇然一先生也一日探親至城聞人談及上海妓院中有大先生小先生尖先生之稱呼瞠目不解所謂私詢其友曰什麼窰子裏頭要請這許多先生嗎況先生的名目也奇怪譬如我的學生見了我應該稱先生見了我的兒子小兒子總得稱大先生小先生但這尖先生究竟稱那一個呢友戲之曰想來就是令愛罷

●屠夫 某甲赴市沽肉指所懸之肉曰此猪婆肉乎屠夫冷笑曰好眼光甲以爲刺己也乃曰我非謂此肉不可食所恐煑不爛耳屠夫指天大言曰煑不爛天火燒甲聞其設此重誓料無故乃購肉去歸而煑之果不爛往與屠夫爲難屠夫曰方爾來此時謂此係猪婆肉我讚爾好眼光以爾眞能識此肉也爾謂煑不爛我即謂添火燒本囑爾多添一把火燒燒何嘗誑爾也甲遂無言而去

NEWCHWANG, SUNDAY, JAN. 14, 1906.

THE HAND OF DIVINE PROVIDENCE (PART XXIII).

If Mother Eve had only known what was to be the awful penalty upon transgression, she would not have touched the luscious apple. Similarly, if China could have only foreseen what she had to pass through during the 10 years before the Japan-Russian War, she would have declined with thanks the treacherous offer of the Tempters to pluck for her the forbidden fruit of Liaotung. Then, all those national disasters as summarized above, must have been spared her. No Boxer Disturbances might have taken place. The Japan-Russia War might not have ravaged the luckless Manchuria. The whole China might not have placed herself under a crushing moral obligation to Japan, for frustrating the 'Partition Plot' on the very eve of its maturity. And above all these grave considerations, the most regrettable is that the true healthy awakening of China has been in consequence retarded for full 10 years. For, if left free from the outrageous aggressions of Cossack and his clique which had kept her in a state of constant nervous flurry, China must have yielded to the pressure of progressive influence right after the Japan-China War, not waiting until the Japan-Russia War was over, and let the torch of civilization light up by degrees her benighted land. 10 years' time lost to a nation of 400,000,000 population, in this age of strenuous competition is a loss for China which cannot be recovered even with all the money in her. And to incur such a national loss, she has been compelled besides to pay all those other disastrous wages of her sin—the plucking of the forbidden fruit of Liaotung. As God's love for the wise and righteous is boundless, so is His wrath against the iniquitous fool really terrible. He loves and preserves the good, but destroys the wicked without mercy.

Japan, actuated by a desire to guard Korea's autonomy from being further disturbed by China, christened the Peninsular Kingdom as an independent Empire, after the Japan-China War. She inoduced Korea into the recognition of the Powers of the world, who had before that hardly ever taken notice of the existence of such a country lying in oblivion. Japan, partly from her absolute physical claim on Korea and partly alive to her responsibility as the stronger and more enlightened neighbonr, had expelled by the war the barbarous and destructive Chinese influence out of the Kingdom. The virtual obliteration of Korean independence by the recent establishment of Japanese protectorship over Korea, has brought about many a gnashing of teeth and shedding of tears with an almost dramatic effect on the reader by some journalistic philanthropists in China and Korea. The very same independence had been conferred upon Korea by Japan 10 years before, by going through a war against the then dreaded, mystifying giant China. Japan was the sole author and, in fact, donator of the independence in question, which was not one earned in the slightest degree by any efforts on the part of Korea or her people. Had not Japan snatched her away from the death clutch of armed occupation of China? It was not an indebtedness for mere acts of neighbourly courtesy or kindly consideration, of which Japan had done so many previously towards her. It was an indebtedness for the saving of life—the highest moral obligation an individual or a nation can bear to another. Every moral indebtedness creates a corresponding moral claim in the benefactor. Ingratitude, a cardinal sin most detestable to God, is the disregarding of this claim by the debtor. Gratitude, being a purely moral binding force, absolutely abstract in essence, it is above the government of the human law, and cannot be levied at court from the ingrate. However, when the saving of a life is concerned, the benefactor may morally insist, without a disparagement to his modesty, on claiming from the debtor the payment of the obligation in some tangible from. In proportion to the magnitude of the sacrifice involved in the rescue, the obligation increases, and the claim of the rescuer on the saved grows accordingly stronger. A war, the stake in which meant no less than the destruction of Japan in case of her suffering a reverse, and which, as it was, did cost Japan the considerable loss of blood and money to win a victory, may well be conceded as a sacrifice of no small dimensions.

Such had been Japan's moral claim on Korea after the Japan-China War and before the Japan-Russia War.

時刻

塘沽至北京 上六、○○ 下二、○○
天津至北京 上二、○○ 下五、二○
山海關至北京 上八、○○ 下六、四五
唐山至山海關 上六、○○ 上一一、一○
山海關至營口 上七、○五 下四、五五
溝邦子至新民屯 上一、○○ 下六、五七

奉天發 午前一一、○○

大連發 午前七、三○
旅順着 午前一○、四九

營口發 午後十○、二五
大石橋着 翌前一二、二○

豫報

昨日の氣温 最高温度二十八度 最低温度六度八

爲替相場（一月十二日）

日本向　軍票百圓に付金九十五圓五十錢
上海は　百圓に付六十七兩二錢五分
天津向は　百圓に付一百〇八五圓五十錢
營口奉天は　天津と同直段

日本品最近物價表　加藤洋行調査

菊正宗	三斗九舛入	銀二十圓
麒麟正宗	四斗四舛入	同十七圓
菊正宗	瓶詰四打	同十五圓
全	三斗四舛	同十圓
鮪	四打入	同十三圓
ラッキョ	五打	同十四圓五十錢
辛子漬	四打	同九圓五十錢
フキ	全	同八圓
栄螺	全	同十四圓
鷲ミルク	全	同十八圓

石炭（飯塚工程局）
一上等塊炭　一噸ニ付銀十八圓
一仝　切込　仝　仝十七圓五十錢

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription　4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價
一枚ニ付　銀四仙
一ヶ月前金　銀八十仙
半ヶ年前金　四弗八十仙
一ヶ年前金　銀九弗六十仙
[illegible]

營口旅館料理店案內（いろは順）

旅館　第一營口ホテル　元神廟街九十六號

旅館　第二營口ホテル　河岸通り

料理　第三樓　元神廟街三十二號　店主 粕屋忠兵衛

料理　入船亭　永世街百八十三號　谷初次郎

旅館　日營ホテル　河岸通り　店主 井上源吉

料理　東京館　永世街八十六號　店主 村上京四郎

旅館　東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三程

旅館　千代田旅館　永世街甲八十七號　店主 高橋きみ

料理　沖の島　永世街十八號　店主 中川彌三郎

料理　吉野亭　永世街八十六號　店主 坪田正好

旅館　竹村館　永世街二十二號（電話五一）店主 麻田久二

旅館料理　高砂ホテル　高砂亭　西北街　店主 片山小みつ（電話一四五番）

南洲旅館御用達商　濱田新之助　南永世街拾九號

旅館　彌生館　永世街百六十七號

料理　やよひ　永世街百六十七號　店主 宮下只七郎

料理　滿月　平野町百八十二號（電話一六二）店主 青木勝惠

料理　滿洲樓　西北街二百五十二號　店主 直塚□一

料理　萬梅　豊濱門街第百〇四號　店主 田島彌助

御料理　まんなをし　永世街字二本町二百五十九号　元吉田靈跡　店主 和田常松

料理　松迺家　元神廟街 矢野洋行向ひ　店主 山本壽三郎

料理旅館　醉花園　澁谷旅館　永世街百二十七號　店主 澁田留吉

旅館　大和館　永世街六號

料理　第二大和館　永世街百六十六號　店主 前田九一郎

料理　曙館　永世街平野町　營口座向

旅館料理　金城ホテル　永世街百六十六號　第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主 齋藤富次郎

旅館　東雲旅館　永世街七號　店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館　東雲　主任 谷口今朝太郎

さるそば　第一更科　營口元神廟街
さるそば　第二更科　永世街鶴の湯角

琴三味線處　并に張替附屬品一切　永世街八十五號二本町角　土生香樂堂

和洋御料理　第二東京館　元神廟街　店主 松田平四郎
東京一流　かき飯

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業　日營ホテル支店　主任 井上源吉

御料理會席　菊水館　主任 朝枝團挹

旅館西洋料理　遼陽館　主任 永瀬宇吉

旅館料理業　公陽館　主任 宮川秀基

御料理會席　末廣屋　主任 山根初之亟

御料理　凱旋亭　色々應御注文　主任 古谷庄太郎

旅館御料理　遼塔ホテル　主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル　遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任 谷口今朝太郎

御料理會席　玉家　主任 西野治三郎

御料理會席　來々亭　主任 石田清

營口永世街　營口印字局

正札特別廉價　雜貨賣出し

一婦人髪道具一切及化粧品色々
一防寒シャツ手袋類
一靴下帽子類
一鑵詰及履物
一小間物一切
一賣藥色々

質屋　和清洋行　永世街森病院隣　志田ます

弊店義開業以來御華客樣の御愛顧御引立に預り千萬奉謝候偖て今度遼陽に支店を設け旅館會席御料理相營み可申候間本店同樣御贔屓御引立の程偏に御願ひ申上候先は御禮旁ゞ御披露迄早々

營口元神廟街第萬十三号　和洋料理　松月亭
遼陽城內西街百十七号　旅館 和洋料理會席　滿洲ホテル

御客樣各位

喜久洋行

●白米　●石炭　●干魚　●建築用材木
●糯白米　●木炭　●鹽魚　●洋釘　●亞鉛板

營口永世街八十號　喜久洋行（電話百五十二番）

御小賣致候間御用の節は電話又は端書にて御通知次第直に持参可仕候也

酒保品諸雜貨御商　神崎洋行

營口永世街甲百廿七號警務課前

▲其ノ外新荷着種々安價大勉强▲

倉庫業

倉庫位置　營口綏定門街（公和窰）院內

郵船會社碼頭ヨリ西二丁余商船會社碼頭筋向イ河岸ヘ半町ニシテ馬車ニ陸揚ゲ便最適當ナル位置

新玉號倉庫部（電話一五七號）

東洋醫院　竹村旅館ノ側ヨリ河岸ニ通ズル横町ノ中央角（永世街十八號）午前宅診午后往診入院随時　山田長

加藤洋行（SK）

酒保諸君急告

弊店儀今回酒保品全部相片付け度特別大見切賣致す可く候に付至急御來店の上御相談被下度願上候也

●麒麟正宗
●諸罐詰類
●巻紙、狀袋
●菓子、砂糖

其他諸雜貨一切取揃へ誠實を旨とし精々勉强仕る可く候間多少に拘らず御用命被下度奉願上候

S.KATO & Co.
Hongname "Chah Tung."
Yingkow, Telephone No. 80.
Main Store.
Japanese Concession, Tientsin,
General Store-keeper & Commission merchant

銘酒　菊正宗　新着!!
營口明覧　半定價にて差上ます
祝新年
雜貨商　加藤洋行（電話八十番）
本店　營口
支店　天津日租界　北京
出張所　遼陽
大阪
當の內分